



草見露

第79号 令和7年（2025年）

初 御 祓 三 毬杖神事
厄 除 神 事 春季大祭斎行
茅輪作りと夏越祭

令和7年度年象意

疾風迅雷の年

暑中のご挨拶

浪越進照

親神尊を慕う皆様、仁尾の鎮宮より

謹んで暑中のお見舞いを申し上げます

疾風迅雷（しつぷうじんらい）の年象意を持つ令和七年ですが、残念ながら、「それまでの状況を一変させる激しい変化が突如として現れる年」という、疾風迅雷の悪しき側面が国内外で現れてしまったこの半年間でした。例えば、トランプ関税やイスラエルとイランの軍事紛争などは、疾風迅雷が見せた悪しき側面の一例と言えるでしょう。

そのことを踏まえ、六月二十九日の夏越祭で奏上した祝詞（のりと）文の中に、「残る半年、疾風迅雷の悪しき側面が、この茅の輪を潜る者たちに災いせぬように」との祈請文を盛り込ませていただきましたが、疾風迅雷を引き起こす星の配列が、これからさらに強まることを思えば、決して予断を許すべき残り半年ではないでしょう。

ここまで、疾風迅雷が持つ悪しき側面について述べてきましたが、一方で、疾風迅雷のお蔭で、長年の懸念事項が突如として今年

解決した方もおられます。

その方がおっしゃるには、「疾風迅雷が我が家で起きましたが、そのお蔭で、家族を長年悩ませていたあの問題が、嘘のように消え去ったのです」とのことでした。

もう少し具体的に申し上げると、今年に入ってからその方の家庭では、まず最初に悪しき側面の疾風迅雷が、長年の問題とは別の大問題を引き起こしました。

しかしその方は、以前進照がお教えした『光を見ようとせず、すすんで影ばかり見ていればこの世は地獄。影に気を取られず、すすんで光ばかり見ればこの世は天国』という言葉の肝に銘じ、悪しき疾風迅雷に立ち向かわれたのです。

そうこうしているうちに、悪しき側面の疾風迅雷が、長年そのご家族を悩ませてきた問題を、知らぬ間に吹き飛ばしていることに気づかれたそうです。その方曰く、「最悪の疾風迅雷が我が家を襲ったときは、もうだめかと思いましたが。しかし、あの最悪の疾風迅雷

がなければ、長年に渡って家族を苦しめてきたあの悩みが消えることはなかったでしょう」とのことでした。

我々は、ともすれば「人間万事塞翁が馬（世の吉凶禍福は転変常なく、何が幸で何が不幸か予測しがたい）」という教えを忘れ、目の前で起きている「その時」だけを切り取って、吉凶を口にしてしまいがちです。

親神尊が我々を幸福へと導いてくださるとき、吉事だけを数珠つなぎにして導いてくださることはありません。もしそれが許されるのなら、苦しい練習をせずに金メダルを獲得するアスリートや、勉強を怠った学生が超一流大学に入学できてしまうという、「あつてはならない矛盾（結果的にその人を不幸にする矛盾）」が生じてしまうからです。

疾風迅雷の年象意がさらに強まる令和七年の残り半年。日々の奉拝五行を通じて、我々を幸福へと導いてくださっている親神尊の御力を肌で実感し、南無親神尊（なむおやがみそん）を唱えつつ、残された疾風迅雷の半年を有意義に過ごしたいものです。

無意無恩頼無創無生（進照）

初御祓

「初御祓には全員マスク着用で」との通達があり、新しい年が明けて一月一日午前一時に進照先生がお出ましになられて令和七年度の年象意を「疾風迅雷の年」と貼り紙で発表されましたが、今年も初説話は残念ながらお聞き出来ませんでした。御神楽も無く、前田民雄総代の太幣祓や祝詞奏上があつて、御祓奏上時には参列者全員が声を揃えて合祓する事が出来ました。そして御祓奏上後は互いに声掛けしながら、別れを惜しみつつ帰宅の途に着きました。

（M・A）



▲ 初御祓で揃い打ち

三毬杖神事

令和七年一月十二日（日）午前十時より、正月にお迎えした歳徳神をお送りする「三毬杖（さぎちよう）」の神事が、親神尊の鎮宮にて厳かに執り行われた。

当日は、ときおり霰が降る生憎の天候であったが、信者各位の家庭から持ち込まれた正月用品や、昨年神棚に祀られていた破魔矢・縁起熊手、そして各種守り札が焚壇の神火で清められ、立ち昇る神煙とともに高き所へお帰りになる歳徳神に滞りなく託された。

コロナ禍の影響を受け、今年も神事終了後の直会が省かれる三毬杖となったが、封書に認（した）めた昨年の「悔い事」を神煙に託して歳徳神に委ね終えた参列者の表情は、いずれも明るく、晴れやかであった。

（進照）



▲ 無病息災を祈り



厄除神事

一月二十六日（日）午前十時から厄除神事（前厄・本厄・後厄）が行われ当日朝に自宅の神棚や仏壇に手を合わせて以降は言葉を発せられず無言で神社へと向かい、控室で進照先生から玉串奉奠の作法を教わり、全員で石段下まで行き法螺の音を合図に本堂前で年齢分の小銭を後方に撒き、本堂に入り施錠した中で神事は粛々と進行し進照先生が親神尊に礼の限りを尽くされ宣詞を奏上し、神威や神刀を用い厄除けして下さり蘊奥の唱言で締めくくり、太鼓が打ち鳴らされ本堂が解錠され、境内に法螺の音が鳴り響く中石段下で草履の鼻緒を切り沈黙は解かれ、この一年を任される年にせねばと気持ちを新たにしておられました。

（M・A）



▲ 神刀を頭上に受けて



春季大祭斎行

令和七年二月十六日（日）午前十時より、親神尊の鎮宮において春季大祭斎行神事が執り行われた。

コロナ禍に下火の兆しはあったものの、大祭運営を奉賛してくださる方々の多くが高齢者であることから、今回も大事を取って、斎行神事のみを行うこととなった。

過去の『露見草』で紹介されている式次第に従い、進照と前田総代の二人で春季大祭の斎行神事を粛々と執り行ったが、やはり信者たちの歓喜の声が聞こえない斎行神事に、大祭としての達成感を覚えることはなかった。

（進照）



▲ 足高に『ご内遊！』



夏越祭

猛暑日が続いていた六月二十八日

(土) 午前六時に有志各位が集合して茅刈りを行い、その延長で二名が本堂で午前中茅を揃える作業を続けて下さり、午後一時からは大茅輪の奉製作業にみんなが協力し合い、仕上がった茅輪にたっぷり水分補給しました。

明けて二十九日(日)の午前十時から境内で「茅輪潜り」が始まり、「蘇民将来」と唱えつつ左回り↓右回り↓左回りし、三回目は「南無親神尊」と一心に唱えながら潜っていました。神社ではこの夜七時過ぎまで茅輪潜りする人達で賑わっていました。
(M・A)



▲ 火炎杖で茅輪を祓い清め

お知らせ

秋季大祭

- 日時** 8月17日(日) 秋季大祭案内状宛名書き
 9月14日(日) 秋季大掃除奉賛
 9月20日(土) 秋季大祭(宵祭)
 9月21日(日) 秋季大祭(本祭)
 午前10時御膳上げ
 9月22日(月) 祭収め

感謝祭が盛大に執り行われます。皆様お誘い併せてご参拝下さいますようご案内申し上げます。

年忘れ会

- 日時** 12月7日(日)
 午前11時神事開始
場所 本堂
参加費 男性：3,500円
 女性：3,000円

師走を元気で乗り切れますよう大勢の方がご参加下さいますよう、お誘い申し上げます。

大注連縄作り

- 日時** 12月14日(日)
 午前8時より
場所 本堂

大・中・小の注連縄を1つずつ作り上げていく作業に、有志の皆さんが参加して下さいようお願い申し上げます。

納め命日(悔い事祓)

- 日時** 12月18日(木)
 午後8時より
場所 本堂

一年間の反省事をしたため封をし神社へご持参下さい。大勢の方々がご参列下さるようご案内申し上げます。

初御祓

- 日時** 令和8年1月1日(木)
 午前1時より
場所 本堂

令和8年がどんな年になるのかを年象意で発表し初説話して下さい。ご家族お揃いでご参拝下さい。

次号のご案内

次号「露見草80号」は令和8年1月1日(木)に発行され、秋季大祭～悔い事祓神事を予定しており、同時に「令和8年度七宝稻荷年中行事」と「令和8年七宝稻荷暦吉日一覧表」も発表致します。